

消化管内科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	大腸癌腫瘍性病変における腫瘍免疫逃避に関連するタンパク質の発現、および予後への影響
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 藤原 祥裕
担当科等	愛知医科大学 病理学講座
研究責任者	客員研究員 稲熊 真悟
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	名古屋市立大学 教授 稲熊 真悟
研究の意義・目的	大腸癌における免疫逃避機構と予後に及ぼす影響の解明を目的としています。
対象となる患者さん	2000年4月から2017年3月までの間に通常の診断・治療目的にて生検あるいは手術を受けた大腸癌、前癌病変患者さん
研究の方法	愛知医科大学病院にて、通常の診断・治療目的のため生検・手術によって採取された診断済み大腸パラフィンブロックの残余から、一部を採取し、組織アレイを作製します。これを用いて大腸癌組織における腫瘍免疫、および悪性度に関連したタンパク質の発現、特定の癌現遺伝子変異を解析し、大腸癌の病理組織学的所見、分子生物学的分類、および予後情報との関連性を解析します。研究計画書及び研究の方法に関する資料の閲覧は、研究計画に影響を与えない範囲で可能となっております。これらの資料の閲覧、開示を希望される方は、下記問い合わせ先まで申し出てください。
研究期間	倫理審査承認日 ～ 2025年10月31日
研究に用いる試料・情報	試料：愛知医科大学病院にて、通常の診断・治療目的のため生検・手術によって採取された診断済み大腸パラフィンブロックの残余 情報：年齢、性別、病期、予後情報等
外部への試料・情報の提供	試料・情報を、個人が特定できない状態（匿名化）で、名古屋市立大学に提供する場合があります。
試料・情報の利用又は提供を希望しない	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2023年10月までに下記問い合わせ先まで申し出てください。ただし、既に発表された

場合	情報に関しては修正困難な場合があります。また、試料・情報が個人を識別できる場合のみ対応可能です。
問い合わせ先	愛知医科大学 担当者：客員研究員 稲熊 真悟 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311（内線 12261、12306）